

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第54期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	愛眼株式会社
【英訳名】	AIGAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 下條 三千夫
【本店の所在の場所】	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
【電話番号】	06-6772-3383（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 下 祥造
【最寄りの連絡場所】	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
【電話番号】	06-6772-3383（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 下 祥造
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 前第1四半期連結 累計期間	第54期 当第1四半期連結 累計期間	第53期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	4,055	4,102	16,150
経常損失() (百万円)	456	158	1,606
四半期(当期)純損失() (百万円)	482	183	3,729
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	485	166	3,639
純資産額(百万円)	19,258	15,854	16,020
総資産額(百万円)	22,135	19,137	18,903
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	24.53	9.48	191.05
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	87.0	82.8	84.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第53期第1四半期連結累計期間、第53期及び第54期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策による円安や株価上昇を背景として一部に景気回復の期待感が高まっていますが、輸入価格の上昇や新興国経済の成長鈍化など懸念材料もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。個人消費につきましても、一部指標で上昇が見られましたが、所得の低迷、将来の生活への不安感を背景とした節約志向が根強く、本格的な回復軌道を取り始めたとは言い難い状況でした。

このような状況のもと、当社グループは再生に向けた事業戦略として昨年1月より立ち上げたNEW愛眼プロジェクトの体制を整えるため、店舗のリニューアル、店名ロゴの変更、メガネ一式価格「スマートプライス」の表示による商品演出、マス媒体を活用した広告宣伝などの営業活動を継続して展開してまいりました。また、NEW愛眼を地域消費者により周知していただくため、シリーズ第5弾となる「POCOP」やクールビズメガネ「クリアフィット」、さらに釣り用に適した偏光サングラス「ストームライダー」、お風呂専用メガネ「FORゆ」などオリジナル品を主に機能・素材に優れた新製品を順次市場に投入しました。様々な話題提供で各種メディアへの露出機会が増加し、ニッチな市場へも販路が広がり、積極的な営業活動を展開することで店舗へ多くのお客様の導引を図ることができました。そして店頭でのカウンセリングから、お客様各人のライフシーンごとに最適なメガネを選別・提案する「アイスタイリング・サービス」の機会も増加してまいりました。

店舗に関しては、株式会社ゼノンより譲り受けた9店舗を含め新規に10店舗を開設し、1店舗を閉鎖しました。また既存店24店舗を「NEW愛眼」へリニューアルし、明るく清潔感のあふれるイメージで若い世代も来店しやすい店舗づくりを進めました。

売上については、NEW愛眼の販売施策が消費者に徐々に浸透し、眼鏡販売着数は前年比で増加したものの、景気の先行きに対する不透明感から消費者の低価格志向が定着し単価が低迷し、わずかな伸びとなりました。サングラスの売上は、梅雨明けが例年より早く猛暑の影響もあり増加し、補聴器も提案営業などの効果で増加しました。

利益については、売上総利益率は商品構成の見直しなどで改善しつつあります。また、前年に実施した希望退職応募に伴う従業員の減少や固定資産の減損処理に伴い人件費、交通費、減価償却費などが減少したものの、営業基盤強化のため改装や新規出店等を進め備品費、修繕費等が増加しており、より一層のコスト削減に取り組む所存です。

海外（中華人民共和国）におきましては、地域密着の営業活動を展開したものの販売環境が回復するまでには至らず、また1店舗の閉鎖もあり売上は減少しました。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高は4,102百万円（前年同四半期比1.2%増）となり、営業損失は184百万円（前年同四半期は営業損失470百万円）、経常損失は158百万円（前年同四半期は経常損失456百万円）、四半期純損失は183百万円（前年同四半期は四半期純損失482百万円）となりました。

（2）財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は19,137百万円、負債合計は3,283百万円、純資産合計は15,854百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が400百万円増加し、純資産合計が166百万円減少した結果、自己資本比率は82.8%となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

設備計画の完了

新設

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に完了したものは、次の通りであります。

地域別	事業所数	設備の内容	完了年月	投資金額 (百万円)
関東地域	営業店 8 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	232
中部地域	営業店 1 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	13
近畿地域	営業店 1 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	18
計	-	-	-	264

(注)上記金額には、消費税等を含んでおりません。

改修

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の改修について、当第1四半期連結累計期間に完了したものは、次の通りであります。

地域別	事業所数	設備の内容	完了年月	投資金額 (百万円)
関東地域	営業店 6 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	19
中部地域	営業店 4 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	16
近畿地域	営業店 13 店	眼鏡店舗	平成25年 4 月 ~ 平成25年 6 月	55
計	-	-	-	91

(注)上記金額には、消費税等を含んでおりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	21,076,154	21,076,154	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	21,076,154	21,076,154	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額(百 万円)	資本準備金 残高(百 万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	21,076,154	-	5,478	-	6,962

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,666,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,383,700	193,837	-
単元未満株式	普通株式 26,154	-	-
発行済株式総数	21,076,154	-	-
総株主の議決権	-	193,837	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権の数5個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
愛眼株式会社	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号	1,666,300	-	1,666,300	7.91
計	-	1,666,300	-	1,666,300	7.91

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,117	4,890
受取手形及び売掛金	948	1,003
商品及び製品	2,418	2,599
原材料及び貯蔵品	16	9
その他	227	227
貸倒引当金	12	13
流動資産合計	8,716	8,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,895	6,979
減価償却累計額	5,533	5,540
建物及び構築物(純額)	1,361	1,438
土地	2,075	2,075
その他	2,425	2,515
減価償却累計額	2,417	2,401
その他(純額)	7	113
有形固定資産合計	3,444	3,627
無形固定資産	2	72
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,091	4,182
投資有価証券	1,490	1,513
長期預金	100	-
その他	1,069	1,034
貸倒引当金	11	10
投資その他の資産合計	6,740	6,719
固定資産合計	10,187	10,419
資産合計	18,903	19,137

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	770	985
1年内返済予定の長期借入金	65	65
未払法人税等	118	37
賞与引当金	50	25
その他	923	1,206
流動負債合計	1,927	2,319
固定負債		
長期借入金	405	390
繰延税金負債	48	52
再評価に係る繰延税金負債	7	7
資産除去債務	348	359
その他	145	154
固定負債合計	955	963
負債合計	2,882	3,283
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	7,066	6,882
自己株式	1,050	1,050
株主資本合計	18,456	18,272
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90	99
土地再評価差額金	2,534	2,534
為替換算調整勘定	7	16
その他の包括利益累計額合計	2,435	2,418
純資産合計	16,020	15,854
負債純資産合計	18,903	19,137

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	4,055	4,102
売上原価	1,341	1,322
売上総利益	2,713	2,780
販売費及び一般管理費	3,184	2,964
営業損失()	470	184
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	4	5
受取家賃	9	10
負ののれん償却額	0	-
物品売却益	-	16
その他	15	12
営業外収益合計	35	52
営業外費用		
支払利息	-	1
固定資産除却損	12	13
賃貸費用	7	8
その他	0	3
営業外費用合計	21	26
経常損失()	456	158
特別利益		
投資有価証券売却益	-	1
特別利益合計	-	1
特別損失		
投資有価証券評価損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前四半期純損失()	456	157
法人税、住民税及び事業税	26	27
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	25	26
少数株主損益調整前四半期純損失()	482	183
四半期純損失()	482	183

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	482	183
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	8
為替換算調整勘定	5	8
その他の包括利益合計	3	17
四半期包括利益	485	166
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	485	166

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

該当事項はありません。

（追加情報）

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	0百万円	1百万円
支払手形	143	134

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	84百万円	41百万円
のれんの償却額	-	0
負ののれんの償却額	0	-

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	39	2	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、報告セグメントが「眼鏡小売事業」のみであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	24円53銭	9円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(百万円)	482	183
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	482	183
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,679	19,409

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月12日

愛眼株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊與政 元治 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中畑 孝英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている愛眼株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、愛眼株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。